

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375700693		
法人名	有限会社米澤福祉会		
事業所名	グループホーム「よつ葉」		
所在地	愛知県知多郡南知多町内海字新田89・90合		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成22年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/JigyosyoBasicPub.d>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 TMCサポート		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成21年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成13年の開設から8年が経ち、地域、行政との連携等確立しており地域に自然に溶け込んでいる印象を受けた。また、近所の高齢者宅へ配食サービス等の支援や日本福祉大学の学生の受けれを行い、次の世代を担う人材の育成にも努め、地域でのホームの役割も確立しつつあるといえるだろう。そして、ホームの中は穏やかな時間が流れ、職員は利用者がその人らしく毎日の生活が送れるように温かく接し、安心・安全に過ごせるよう支援し日々の生活を送っている。今年度も、現取り組みの継続支援、更なる向上・努力を心からお願いしたい事業所であり、またそれが期待ができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく生活できるよう援助に努めている。しかし、忙しさに追われ援助が手薄になることもある。	「入居者一人ひとりの個性を尊重し地域の中で、明るく自由に豊かな生活が送れること」を理念としている。職員全員が理念を理解し利用者に対してその人らしく毎日の生活が送れるように温かく接し、安心・安全に過ごせるよう支援していた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーや、近所の魚屋へ買い物にったりと普通の人と変わらない生活を送っていただいていると思う。浜掃除や、お宮掃除、地域の行事参加も行っている。	散歩や買い物といった日常生活の中で、地域の方々との関わりを持つよう努めている。訪問調査当日も近隣住民へのお弁当の配達に同行したが、地域住民の方からこちらに声をかけてくる場面があった。	開設から8年が経ち、地域住民のホームへの認知度は高いといえる。今後は、ホームが情報発信の基地となり、地域住民へ認知症・グループホームへの理解を深めるための活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物などをしている姿を見て少なくともご近所の方には、認知症に対する理解はいただいていると思う。ただ、特別なことは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの行事や現状報告、また、利用者の突然の外出などを報告し意見を頂いている。しかし参加している職員が、限られているため、他の職員は会議の実際を知らない。現在検討中である。	家族代表・町職員・民生委員・看護師等の参加があり、定期的に2ヶ月に1度開催している。日々の活動報告を議題として、参加者からの意見要望の聞き取りに努め、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議の参加で、簡単な報告を行っている。最近では、生活保護を申請する利用者の件で、現状の生活が維持できるように町の職員と細かな連携をはかり、現在もよつ葉で生活を送って頂いている。	運営推進会議の中でも活発な意見交換や情報提供が行われている。また、制度の改正や生活保護利用者の受け入れ等の相談を行い、密接な関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵、玄関のセンサー設置について、安全と高速の両面から全職員で意見交換を行い、最小限にとどめている。話し合いの根底には「利用者にとっての良い生活」が存在している。	管理者は、身体拘束の弊害を理解した上で、利用者にとって何が一番よいのかを職員間で話し合い意識の統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以前はそのような機会を設けていたが、参加人数が少なく特別に機会を設けては行っていない。現在は、月2回の会議で話が出る程度であるため、検討の必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	そのような機会は特別設けておらず、知識は個々人の勉強にとどまっているため、職員の知識共有の場を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に細かくしっかりと行っている。具体的内容は全職員は把握していないが、いつでも閲覧できる状況になっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、家族の来所時や電話で意見をうかがっている。家族の要望は日常生活で反映できるように努めている。しかし共同生活の中では、ご家族の意見をすべて反映できないこともあり、相談した上で行っている。	日々の支援のなかで、利用者の何気ない言葉や家族との会話の中で、希望・要望の聞き取りに努め、実現に向けて努めている。また、旅行に関するアンケートの実施等家族の意見を把握する取り組みが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングを設け、意見交換を行っている。職員の意見を伺い、その場で返答できない場合は、改めて話すようにしている。	定期的に職員と話し合う機会を設けるとともに、職員に意見の言いやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、賞与などは必ずしも職員の満足に達してはいないが、現状でできる限りのことは行っている。また、勤務表は、職員の希望を優先して立てている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加を促しているが、参加者に偏りがある。また、忙しくて行けないという意見もある。そのため、ミーティング内での意識向上に努めているが、その中で限界を感じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G.H協会チタブロック内での施設交流に努めているが、以前の状況が分からないため、もしかすると距離をこれまでより置いているのかもしれない。その他、代表者知人のG.Hとの交流はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に細かくしっかりと行っている。具体的内容は全職員は把握していないが、いつでも閲覧できる状況になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会、家族の来所時や電話で意見をうかがっている。家族の要望は日常生活で反映できるように努めている。しかし共同生活の中では、ご家族の意見をすべて反映できないこともあり、相談した上で行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護のしやすさより、まず利用者の生活に支点を置きご家族と相談した上で、サービスを利用を検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する意識を持ち、食事準備、掃除、洗濯などを一緒に行おうと心掛けている。しかしその日の職員の力量にも差が生じるため、一方的になることもある。また、言葉遣いの配慮に欠けることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼び掛けたり、電話や来所時には、ご家族のお気持ちを伺うようにしている。また、どのような働きかけをしたら、よりご家族の意見を頂けるか現在考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	幼少期より参拝を続けてきた、生駒山へ参拝するもの、毎日の弘法参りをする者、行きつけの喫茶店へ出かけるなどを行っている。しかし、利用者の金銭的問題、業務上の問題、援助利用者の方よりも課題としてあげられる。	利用者が入居前にやっていたこと、好きなことの継続に努めている。現在は毎日弘法参りに行く利用者や近隣のスーパーへの買い物に行く利用者等一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入浴を一緒にする利用者もいれば、食事介助や着替えを手伝ってくださる利用者もいる。特別に職員の働きかけをしておらず、ご本人のペースに任せている。一緒に過ごせる居住スペース作りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所や、入院されて利用者があれば、個人的にお見舞いに伺っている職員もいる。時には利用者に行くこともある。現在、退所後の相談等の事例はないが、なにか困っていることがあれば、サポートしたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おやつ時の飲み物、好きな食べ物を伺ったり、ご本人の体調と見合せて、調理や掃除等の参加を行っている。困難な場合は、これまでの生活と見合せて、本人本位の生活が送れるよう努めている。しかし、業務に追われ、一方的になることもある。	訪問調査当日は、利用者の誕生日であった。昼食時テーブルには所狭しとその利用者の好物が並べられ、終始笑顔と会話が途切れることのない賑やかなものであった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況などを、ご本人やご家族に伺い把握に努めている。重度化する中、必要となる福祉用具が出た場合、ご本人にとって良い状況になるようご家族と相談して導入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申送りをしっかりと行い、最近の様子や、介護上の注意事項を報告している。簡単なバイタルチェックや週1回の訪問看護の利用では、身体上の把握に努めている。有する能力を毎日発揮できないときもある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のミーティングで、現状に即した介護計画を作るよう努めている。朝の申送りでも情報共有に努め、利用者の最善に努めている。	月2回実施するミーティングで、利用者にとって何が一番良いのか、何をすることができるのかを職員全体で考え、意見を出し合い計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申送りで利用者の現状把握をしている。特記事項があれば、ボードに貼り付けたり、特別ファイルに挟んだりしている。しかしたまの出勤の職員に情報が途絶えたり、また、支援の内容が変わることもあるため、見直しが必要。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでの事業所の体制を見直し、通院介助にはと別料金を請求するようになったりと、これまでより幅、壁がみえるが、そこから新たなサービスができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生ボランティア、実習生の受け入れにより、認知症の理解浸透に心がけている。また医療との連携、で安全と心地よさの提供に心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望する病院を優先しているが、必要な医療機器医療機器が不足している病院、緊急時には、厚生病院、渡辺病院へ搬送する旨を伝えている。また、家族には理解を得ている。	可能な限り、利用者・家族の意向を大切に、必要に応じて協力医療機関との連携を図っている。また、訪問看護ステーションとの連携も図っており、利用者・家族の医療面での安心へと繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護と連携を図り、情報を共有している。緊急時には、電話連絡を行い適切な処置のアドバイス、場合によっては、緊急訪問を行っていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側の計画に偏っている場合がほとんどであり、事業所側から相談をすることは少ない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアや、緊急時の対応についてのアンケートを作成中である。また、そのような時期のケアについて職員の思いと実際の設備、家族の思いについて見直しや話し合いを行う必要がある。	管理者は、重度化がホームにとって大きな課題だと認識しており、利用者・家族の意向の把握に努めている。しかし、職員からは、経験不足からの不安の声が上がっており職員へのフォローも今後の課題と言えるだろう。	今後、重度化が進むことで看取りを行う事例も増えてくることが予想される。ホームとしてどこまでやれるのかを明確にし、家族・医師・事業所の更なる連携の確立を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行ったり対応の仕方を張り付けて目につくようにしているが、すべての職員の不安が最小限で済むよう、定期的に訓練等を行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防との連携を図り、避難訓練の実施を計画中である。	ホームは、今年愛知県に上陸した台風18号の被害に見舞われ、ガラスが割れる等ホームに被害が出たが、利用者の安全確保を第一に考え、管理者・職員の迅速な対応により被害は最小限に抑えられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり心がけた対応を行っているが、忙しいときなど、利用者の着替え時、食事介助時に配慮が欠けることがあるのでさらに心がけることが必要。	介護する側、される側という関係ではなく、温かみのある日常支援を行い利用者のこの尊厳を大切にしている。訪問調査当日も気配りの行き届いた支援を行っていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を聞いてはいるが、それをすべて反映できているわけではない。しかし、職員の思いとして自己決定できる環境づくりの大切さがあり、そのために話し合いを重ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に偏らないように、努力しているが、日々にはばらつきがあると感じている職員もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活に支障のない程度にご本人が選んだ服を着ていただいている。代行の場合は、好みを把握したうえで来ていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者へ食べたいものを伺ってもなかなかでないのが現状であるため、その場合は、広告や職員の案を提示し、思いを伺うようにつとめている。準備や片付けも一緒に行うように心がけている。	利用者は、各自の能力に応じて準備や片付けに参加している食事中には、利用者との会話の中でさりげなく好みの聞き取りを行い、嗜好にも配慮した「楽しみ」の食事支援を実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問看護師との連携を中心とし、基本の形は、全員一緒のものだが、食べる際に一人ひとりの状態にあった食事内容にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人ができるところまでお願いし、その後は、代行で行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時リハパンであっても、布パンツへ移行できるように支援を行っている。失禁、失敗を減らし、心地よく生活できるよう声かけ、誘導を本人のペースに合わせて行っている。交換目的でなく尿意への働き掛けも大切にしている。	自立への支援を念頭に排泄を支援している。また、職員は利用者の様子を敏感に察知し、トイレへの誘導等を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師や医師との連携を図り個々人の状況にあった、対応を行っているそのため記録も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人に入浴の意向を伺っている。ご本人が入りたいときに入浴できるように心がけているが、職員のタイミングになることもある。	利用者個々の要望にできるだけ沿って支援している。また、2人での入浴等利用者の希望要望に柔軟に対応し、利用者のくつろぎの時間を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の必要性は、職員は把握している。一人ひとりの状況に応じて休息を取っていたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のフェイルはあり、管理もすべての職員が行い、把握するようにしている。しかし、だれが何の薬を飲み、それがそのような作用、副作用があるかまでは、全員は把握していないように思える。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	忙しいときは、集団支援を活用し、生活に刺激を与えるように努めているが、日常生活で、さらに個別に向き合えるよう職員同士で話し合いを重ね、より充実した生活を提供できるようにしたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事参加をはじめ、毎日の買い物、個別支援としては、生駒山参拝、舞台鑑賞、喫茶店への同行をしている。また、季節ごとの行事などは、なるべく全員参加できるように心がけている。	地域で行われる行事や砂浜の清掃、買い物、散歩等積極的に外出をする機会を設けている。また、一泊旅行を実施しており、家族の参加もあり非常に盛況な様子である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご家族の要望で事務所に預けている方がほとんどである。ご本人へ管理していただいたこともあるが、紛失の際のトラブル、ご本人にも負担であったように見れた。本人より要望がご家族を交えた相談の上で実行するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられるような状況にはなっていないが、利用者の発想にそのようなことが少ないため、不安等があった場合の手段として提案したり、また近況報告の手紙など利用者で行い家族とのつながりを持つ機会としたい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民宿を改造して作った施設のため地元の利用者には居心地がよいと思う。また、室内は季節に合った利用者手作りの作品や植物等を飾って季節感を出している。エアコンを調節しながら、温度調節も行っているが、基本は、自己調整できるようにも働きかけてる。	ホームは民宿だった建物で、ところどころに面影を残している。そのためなのか、ホーム内の時間はゆったり流れているように感じられた。日中は日当たりのよいホールへ自然と利用者が集まり、利用者同士が談笑をしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに居室があり、また、共同スペースにはソファ、椅子を配置し各々で過ごしていただくためだけでなく身体的な面も配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具や仏壇などを持ち込んでいる。認知症が進行する一方では、ご家族と相談のうえ、フローリング、ベッドへの移行等を行っている。	居室には筆筒・写真等なじみの物品が置かれ、利用者の居室はそれぞれ個性あふれる素敵な空間となっている。家族の協力体制・ホームの積極的支援がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段の滑り止め、手すり等の活用を行っている。迷いやすい場所には、名札を掛けたりもしている。また、やむを得ず玄関にセンサーを設置しているが、安全と防犯の両面から検討し、最小限にとどめ依存しないように努めている。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	散歩や買い物といった日常生活の中で、地域の方々との関わりを持つよう努めている。訪問調査当日も近隣住民へのお弁当の配達に同行したが、地域住民の方からこちらに声をかけてくる場面があった。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	家族代表・町職員・民生委員・看護師等の参加があり、定期的に2ヶ月に1度開催している。日々の活動報告を議題として、参加者からの意見要望の聞き取りに努め、サービスの向上に活かしている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	運営推進会議の中でも活発な意見交換や情報提供が行われている。また、制度の改正や生活保護利用者の受け入れ等の相談を行い、密接な関係作りに努めている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	日々の支援のなかで、利用者の何気ない言葉や家族との会話の中で、希望・要望の聞き取りに努め、実現に向けて努めている。また、旅行に関するアンケートの実施等家族の意見を把握する取組みが行われている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成13年の開設から8年が経ち、地域、行政との連携等確立しており地域に自然に溶け込んでいる印象を受けた。また、近所の高齢者宅へ配食サービス等の支援や日本福祉大学の学生の受け入れを行い、次の世代を担う人材の育成にも努め、地域でのホームの役割も確立しつつあるといえるだろう。そして、ホームの中は穏やかな時間が流れ、職員は利用者がその人らしく毎日の生活が送れるように温かく接し、安心・安全に過ごせるよう支援し日々の生活を送っている。今年度も、現取組みの継続支援、更なる向上・努力を心から願いたい事業所であり、またそれが期待ができる事業所である

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。